



## 飯塚サイエンスギャラリー開設によせて

甲斐 郷子<sup>1</sup>

先日、京都市内で時間の余裕があったので、島津創業記念資料館に行ってみました。ノーベル賞を受賞した田中耕一氏が勤務し、歴史も古い島津製作所の資料館であるので、おもしろい歴史的な機械がなっているかもしれないと思ったのです。中に入ると、小中高で見た実験器具や標本等の教育用理化学機器が多数展示されており、島津製作所がこの手の製品を作る会社でもあったことを初めて知りました。昔を思いなつかしい品を目にし、教科書で学んだ科学的な理屈を目の前で再現させるこの手の製品はおもしろいものだけど、今でも小中高に配備されているのだろうか、と思いました。

名古屋には繊維機械と自動車の技術の歴史を展示しているトヨタテクノミュージアムがあります。やはり名古屋市で時間の余裕があったという情報工学部の小林教授が行ったらしく、繊維機械が100台近く並んでいるのは壮観で、自動織機技術の変遷がわかり大変興味深かったそうです。説明員によると、繊維製品自体の日本のシェアは低いものの、繊維機械のシェアはTOYOTAが約40%、富山の会社が30%ぐらいだそうです。さすがものづくり立国日本と感激していました。横糸を空気で滑らせる方法について熱心に伝えてくれる小林先生を見ていると、よほど楽しかったに違いない、と思いました。

この二つの施設と並べるのは大変おこがましいかと思いますが、九州工業大学でも今年度末より飯塚サイエンスギャラリーが開設されます。飯塚キャンパス内に、コンピュータや情報工学の歴史に関する資料を展示するそうです。情報科学センターの一員として九工大では充実した計算機ネットワーク環境を提供していると自負していますが、情報技術の歴史を示す物品展示というのはありませんでした。情報技術変遷のイメージがつかめるような、また情報技術の可能性に思いをはせるような展示ができるようになればよいと思います。

私が大学生だった頃は、大型コンピュータをTSSで利用するのが普通でしたが、それ以前の技術である電子式アナログコンピュータ、紙テープ、パンチカード等を実験演習で使ってもいました。紙テープの読み込み速度が結構早くて、テレビアニメ「科学忍者隊ガッチャマン」の生みの親・南部博士が紙テープを読むというお決まりシーンから予測していた速度と大きく違うのに、驚いたことを覚えています。大学のコンピュータ演習室には磁気コアメモリが展示されており、教科書で図で説明されていたものの実物を見てやはり感激しました。研究室では当時の最先端機器であったUNIXワークステーションを利用しており、あの頃は知らず知らずに情報技術の歴史的変遷をたどるといふ勉強をしていたのかもしれない。

サイエンスギャラリーで展示物になる品を探している、という話を伺い、身の回りを探してみました。情報科学センター内で展示できるものを探してみました。引っ越しや年末大掃除のたびに整理してし

<sup>1</sup>情報科学センター 准教授 kay@isc.kyutech.ac.jp

## 巻頭言

まったためさほど残っておらず，1970年代の三菱 MELCOM の周辺装置，1980年代の富士通 FM-7 等を提供することにしました．そこまで古いものではないのですが，なんとなく捨てるのが惜しくて持っていた私物の東芝 Dynabook の初号機や NEC モバイルギアを提供することにしました．情報科学センタースタッフにも協力を依頼しましたが，中山氏が1977年に発売された月刊アスキー附録のソノシート「6800 4K Basic」を持ってきたのには驚きました．比較的高価で個人ユーザが持つような PC ではなかった1980年製沖電気工業の if800 Model10 も持ってきてくれるそうです．初期の PC は様々なメーカーが独自のアイデアを投入しており，画一的でないところがおもしろいです．

飯塚サイエンスギャラリーのオープニングセレモニーは平成22年3月22日に開催されます．最初は小規模ではじめるそうですが，これは最初の一步です．展示物として提供してもらえらなればいつでも受け付ける，とのことなので，心当たりのある方は情報工学部広報委員会にご連絡くださいとのこと．将来の発展・充実を期待しています．